

っている」としている。(表 13)

財産を持っている人のうち、その管理を自分でやっている人は 54.2%であり、他の人が管理している人は 33.9%であった。(図 3)

自分で管理している人のうち 65.6%は今後も自分で管理したいとしているが、15.6%は「いずれは誰かに管理してもらいたい」としていた。

他の人による管理では、親による管理が最も多い。自分で管理していない理由は「自分で希望した」が 47.4%、「家族に勧められた」「その他」がそれぞれ 26.3%であり、今後の希望では 6 割弱が「いずれは自分で管理したい」としている。

財産管理に関しての不安は、「ない」が男性で 43.9%女性で 34.1%であった。

「今はないが将来的には不安」、「現在不安を抱えている」は男女間で大きな差はなく、それぞれ合計では 35.1%、11.3%であった。(表 14)

お金の使い方に関するトラブルでは、男性は「計画通りに使えなくてお金が足りなくなった」が 45.8%で最も多く(女性は 20.5%)、女性では「後先を考えずに買物をして後悔した」が 40.9%で最も多い。(男性は 29.9%)

他に男女差の大きいものとしては、「高いものを無理やり売りつけられた」が女性で 22.7%、男性では 9.3%という結果が出ている。(表 15)

## 7.生活行動について

日常生活における行動を「買物」「暮らしの上での行動」「住居・居住に関すること」「仕事・雇用」の 4 つのジャンルに分けた質問を用意した。回答は、基本的には「一人で行ける」「手伝ってもらいたい」「他の人に頼みたい」の 3 つの選択肢とし、「宗教の誘い・セールスマンの訪問販売への対応」「近所の人とのつきあい」の 2 項目のみ「一人で行ける」「少し不安がある」「とても不安」の選択肢とした。

結果、「一人で行ける」が 50%以下の項目に注目すると「高額な買物」(50 万円~100 万円・100 万円以上)「アパートなどの賃貸の契約」「居住中のトラブルへの対処」「近所の人とのつきあい」「就職時の手続」「就職先との交渉」であり、日常的でなかったり、契約をとともなう行為やトラブルに対して援助を必要としていると考えられる。(図 4)

## 8.希望・意志について

生活上の希望・意志を知るために、「これから体験したいこと・今できない理由・実現のために必要なこと」をそれぞれ 3 つまで自由記述で答えてもらい、内容を分類して集計した。

全体で 230 件の回答があり、体験したいこととしては「旅行」が最も多く全回答数の 3

割を占めている。次いで「結婚」、「仕事」の順となった。(表 15)

また、体験したいことが出来ない理由としては、経済的な理由が 92 件、不安感が 41 件、病気・病状が 17 件であった。(複数回答)

実現のために必要なこととしては、「お金」が 105 件、「信頼できる人」等の人的な資源が 53 件、「病気・症状の回復」が 16 件挙げられている。(複数回答)

#### 9.成年後見制度について

成年後見制度についての認知では、63.6%が「知らなかった」としている。「内容も含めて知っていた」は 9.9%と 1 割程度に過ぎない。(表 16)

その一方で「自分で決められないことなどを助けてくれる人がいたら頼みたい事」としては、「家屋の賃貸、保険の契約、高価な商品の購入等に関する事」「不動産または重要な動産等の処分に関する事」「保健、医療、福祉サービス等の利用に関する事」の項目を約半数の人が選んでいる。(表 17)

自分の財産や権利を守ってくれる人として適当と思われる人を複数回答で選んでもらったところ、男女ともに最も多かったのが親 (45.0%) であり、次に多いのが兄弟姉妹 (35.8%) であった。(表 18)

## II. 家族調査の結果

家族の視点から本人の生活状況や財産の管理、援助が必要と思われることについて明らかにするため、本人調査とほぼ同じ項目でアンケートを行った。

調査票は、本人用の調査票を元に家族が本人について答えられるように質問文の語句のみを変更した。

### 1. 属性

家族調査による障害者本人の属性は以下の通り。

性別：男性 86 名 (67.7%)、女性 41 名 (32.3%)

平均年齢：男性 41.9 才、女性 46.1 才、全体 43.2 才

(表 19, 図 5)

### 2. 同居形態

同居形態としては「親と本人のみ」が男女ともに最も多く、男性で 57.0%、女性で 41.5% となっている。兄弟や他の同居者と共に同居している場合を含めると、男性で 64.0%、女性で 61.0% が親との同居をしている。次に多いのは男性では「入院・入所中」(15.1%) 女性では「兄弟・姉妹」(17.1%) となっており、単身者は男女ともに全体の 7% 程度に過ぎない。(表 20, 21)

### 3. 同居している人以外で本人が親しく頼りにしている人の存在

同居している人以外で本人が親しく頼りにしていると家族が考えている人は、「兄弟・姉妹」が最も多く、男性で 44.2%、女性で 24.3% であった。次に信頼している人として、男性では「病院・施設等の職員」(30.2%) 女性は「特になし」(22.0%) があげられている。

(表 22)

### 4. 本人の主な収入

障害年金を主な収入としている人が男性では 82.6%、女性では 65.9% であり、男女とも最も多い。次に多いのは「家族や親戚の収入からの援助」(45.7%) で男女間に大きな差はない。

本人自身の給与収入は男性で 17.4%、女性で 7.3% となっている。(表 23, 24)

### 5. 障害等級

本人の障害の程度について、本人調査と同様に障害者手帳と障害年金の等級を元に推測

した。男女とも 2 級に該当する人が最も多く、全体の 48.6%を占めていた。1 級に該当する人も 23.6%あり、男女差もほとんどない。(表 25)

## 6.収入、財産について

家族から見た本人の収入に対する認知は、「小遣い程度は知っている」が 42.5%で最も多い。ただし、女性では「すべて知っている」も同率 (39.0%) であった。(表 26)

1ヶ月の小遣い額は平均で 25,552 円。(表 27,図 6)

小遣いの金額に対して家族として充分と思うかどうかとの質問では、70.9%が「充分だと思う」としている。(表 28)

年金や通帳等の管理では、「全て他の人が管理している」が男性 38.4%、女性 31.7%と最も多いが、女性では「本人が全て管理している」も 31.7%で同率であった。(男性 17.4%)

本人以外による通帳の管理は 72 事例 (56.7%) あり、管理者の内訳では親が 72.2%と最も多い。(表 29,30)

本人名義の高額の預金や土地・家屋等の財産保有は男性で 37.2%、女性で 29.3%が「持っている」としている。(表 31)

財産を持っている人のうち、その管理を本人が行っているのは 22.7%に過ぎず、59.1%は親が管理を行っていた。(図 7)

親が管理している理由としては、「本人の希望」が 38.5%、「家族が勧めた」が 34.6%と、ほぼ同じ程度であった。また、今後の希望としては財産管理を行っている親のうち 46.2%は「いずれは自分で管理してもらいたい」としており、30.8%は「別な人に頼みたい」としている。

財産管理に関しての家族の不安は、全体の 50.4%が「今はないが将来的には不安」としており、「現在不安を抱えている」も 14.2%と目立っている。(表 32)

お金の使い方に関するトラブルは、本人の性別では大きな差は見られず、全体では「計画通りに使えなくてお金が足りなくなった」が 33.9%、「後先を考えずに買物をして後悔した」が 33.1%であった。(表 33)

## 7.生活行動について

日常生活行動を本人調査と同じ項目で、一部語句を変えて家族の視点で答えてもらった。

結果としては、「日常的な買物」以外の全ての項目で「一人でできる」が 50%以下であり、家族としては生活行動のほとんどを何らかの援助が必要と考えている。(図 8)

## 8.希望・意志について

家族の本人の生活に対する希望・意志を知るために、「これから体験させてあげたいこと・今できない理由・実現のために必要なこと」をそれぞれ3つまで自由記述で答えてもらい、本人調査と同様に内容を分類して集計した。

全部で166件の回答が出され、「趣味を持たせたい」・「日常生活上の事を自分でできるようにしてほしい」などといった、日常生活上の普通の体験への希望が目立っていた。全回答のうち、25.3%はこうした「生活体験」に関わるものであった。(表34)

また、「体験したいことができない理由」としては、本人・家族の不安が27件、本人の意志の問題が26件、経済的な理由が26件、病状の問題が23件であった。

(複数回答)

「実現のために必要な事」としては、「信頼できる人」等の人的資源が34件、「お金」が24件、「医療の充実・病状の回復」など病気の治療に関わることが15件であった。(複数回答)

## 9.成年後見制度について

制度に対する認知は約半数の55.1%が「そういう制度が出来ることは知っていた」と答えている。「制度の内容も含めて知っていた」は17.3%で両者をあわせると70%以上の家族が制度について知っていたことになる。(表35)

「本人が自分で出来ないことを助けてくれる人がいたら頼みたいこと」としては、「保健医療福祉サービス等の利用に関すること」が71.7%と最も多い。続いて「不動産または重要な動産等の処分に関すること」が54.3%、「家屋の賃貸、保険の契約、高価な商品の購入等に関すること」が50.4%となっている。また、「税金、保険料、公共料金等の支払い」も45.7%と比較的多い。(表36)

「本人の財産や権利を守ってくれる人として適当と思われる人」は、全体では「兄弟・姉妹」が最も多く44.1%であった。次いで「親」の38.6%、「福祉事務所、保健所などの公的機関」の30.7%となっている。ただし、男女別に内容をみていくと、女性では2位と3位が入れ替わっており、「親」が26.8%と男性の44.2%に比べて若干低くなっている。(表37)

### III. 本人調査、家族調査を通して - 本人・家族のニーズから成年後見制度を考える -

今回の調査の回答者は、患者会・家族会の会員が中心であり一般の当事者本人・家族に比べて、権利擁護に対する意識が高いことが推測される。また、本人と家族の二つのアンケートを行ったが、対象となる障害者本人の違いもあり単純に両者を比較できるものではない。しかしながら、本人の視点・家族の視点それぞれから、権利擁護に対する考えを得ることができたことは意義のあるものと考えられる。

#### 1. 成年後見人の適任者

今回の調査では、「本人の財産や権利を守ってくれる人として適当と思われる人」を本人・家族それぞれに選んでもらった。その結果、本人調査では「親」、「兄弟・姉妹」、「弁護士等法律専門家」の順になり、家族調査では、「兄弟・姉妹」、「親」、「福祉事務所・保健所等公的機関」という順となった。(複数回答を集計)

同居形態では親との同居が最も多くみられ、同居以外の信頼できる人としては兄弟・姉妹があげられていることと照らして考えると、本人・家族のいずれも身近な親族である親や兄弟・姉妹を重視していることがわかる。

しかし家族調査においては、財産管理の不安を問う自由記載欄で親亡き後の不安が挙げられている回答も多く、現在本人の財産を管理している家族の半数近くがいずれは本人に管理をしてもらいたいと考えている。このことから、家族自身としては本人の財産管理を続けることを積極的に受け入れているわけではなく、現状でやむを得ず行っていることも多いと推測される。

家族調査では成年後見制度に対する認知が70%以上に達し、財産管理・権利保護を任せられる先として「兄弟・姉妹」、「親」に次いで「福祉事務所・保健所等の公的機関」を選択している人が30%を超えている。家族にとっては、安心して財産管理を任せられる人や制度への期待が非常に高いことがうかがわれる。

#### 2. 成年後見人の役割

本人調査では、成年後見制度に対して63.6%は知らなかったと答えており、家族調査の結果と比べて認識が低い。その一方で「自分で決められないことなどを助けてくれる人がいたら頼みたいこと」を問う設問では、「家屋の賃貸、保険の契約、高価な商品の買物」、「不動産や重要な動産の処分」、「保健・医療・福祉サービスの利用」の項目に対して約半数の人が頼みたいとしている。この割合は家族調査においても同様の結果となっている。また、日常生活の様々な行為をどのくらいできているかを問う設問において、本人調査では「高額な買物(50万円以上)」、「アパートなどの賃貸契約」、「居住中のトラブルへの対

処」、「近隣とのつきあい」、「就労時の契約」、「就職先との交渉」の項目で半数以上の人が何らかの援助を必要としている。家族調査においては、援助が必要または代理行為を必要とする割合が全体的に高くなっているが、上位項目（80%以上）に注目すると本人調査とほぼ同じ項目において援助が必要とされている。これらの結果から当事者・家族のニーズは、程度の差はあるものの内容としては共通しているのではないかと考えられる。

両方の設問で得られた内容を整理すると、①高額な買物に関する事、②重要な財産の契約行為をとまなう事、③日常生活における対人関係、④仕事や社会生活上の契約や交渉、の4つに分類できる。このうち、①②に関しては成年後見制度の活用が期待できるが、③④に関しては、成年後見制度では対応が困難と思われる。平成11年10月より開始された地域福祉権利擁護事業では、財産保全サービスおよび福祉サービスの契約の支援がなされ、成年後見制度を補完するものとして期待されるが、以上のようにニーズに対応していくには、より福祉的なサポートが必要と思われる。

### 3. 擁護されるべき権利とは何か

希望・意志を問う設問「これから体験したいこと、体験させてあげたいこと」において、本人調査では「旅行」、「結婚」、「仕事」が、家族調査では「生活体験」、「旅行」、「仕事」が上位となっている。また、これらのことを実現するために必要なこととして、「お金」、「信頼できる人」、「病気の回復」、「医療の充実」などがあげられている。

旅行を楽しめる程度の経済的な余裕、障害を抱えていても安心して就労できるような社会制度とリハビリテーションのシステム、日常生活における様々な相談・援助を行ってくれる人的資源、そのいずれもが充分とはいえない我が国の現状では、こうした「当たり前の生活」の実現さえ困難が伴うことを実感させられる。

権利擁護を財産保護だけではなく、本人の希望の実現や他の障害を持たない人々と同じ生活経験をする機会を保証していくものと考えれば、成年後見制度だけでは不十分である。まず基本的な福祉サービスの充実が前提にあり、そのサービスを利用するための財産活用という場面においてこそ、成年後見制度の果たす役割は大きいといえよう。

# 本人調査年齢

表1. 本人の年齢

年代	男性		女性		計	
10代	0	(0.0%)	1	(2.3%)	1	(0.7%)
20代	13	(12.1%)	10	(22.7%)	23	(15.2%)
30代	35	(32.7%)	16	(36.4%)	51	(33.8%)
40代	35	(32.7%)	8	(18.2%)	43	(28.5%)
50代	17	(15.9%)	7	(15.9%)	24	(15.9%)
60代	6	(5.6%)	2	(4.5%)	8	(5.3%)
70代	1	(0.9%)	0	(0.0%)	1	(0.7%)
計	107	(100.0%)	44	(100.0%)	151	(100.0%)

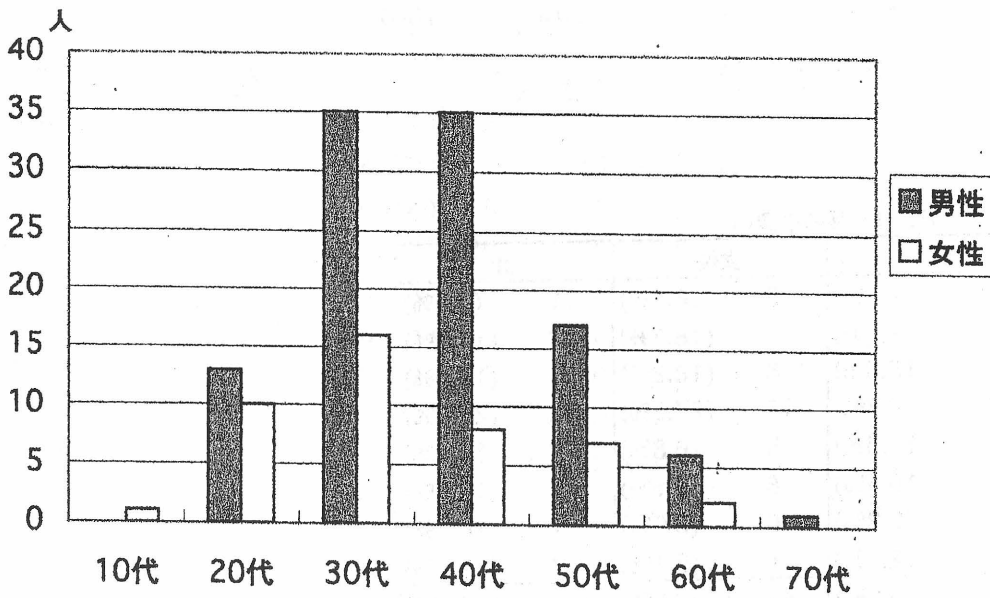


図1. 本人の年齢



本人調査小遣い

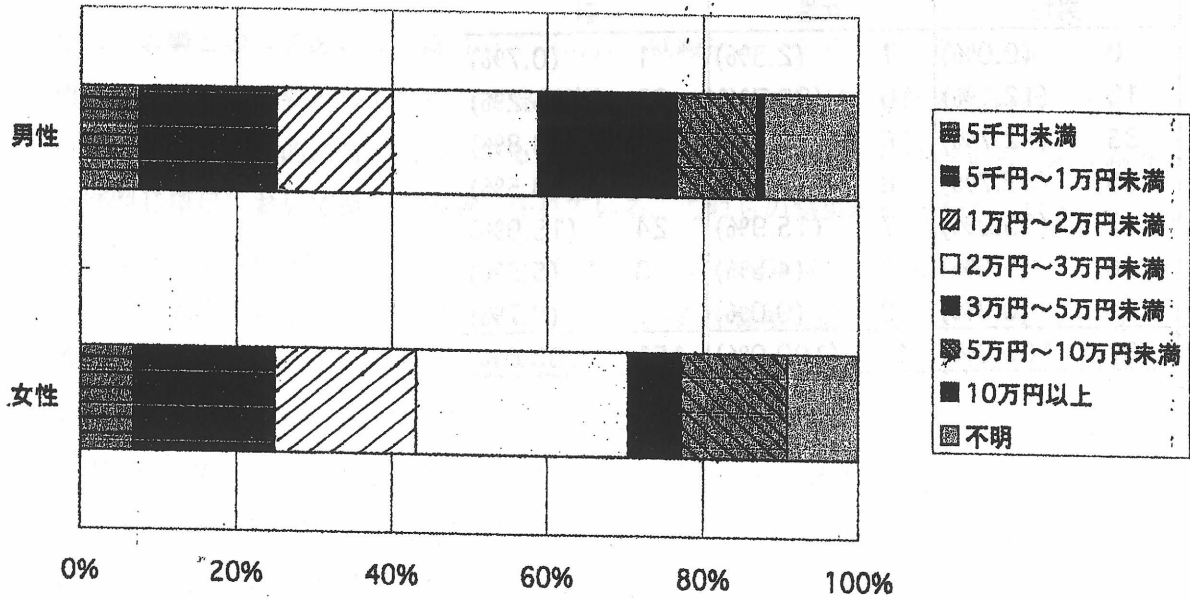


図2. 1ヶ月の小遣い

表9. 1ヶ月の小遣い

金額	男性	女性	計
5千円未満	8 (7.5%)	3 (6.8%)	11 (7.3%)
5千円～1万円未満	19 (17.8%)	8 (18.2%)	27 (17.9%)
1万円～2万円未満	16 (15.0%)	8 (18.2%)	24 (15.9%)
2万円～3万円未満	20 (18.7%)	12 (27.3%)	32 (21.2%)
3万円～5万円未満	19 (17.8%)	3 (6.8%)	22 (14.6%)
5万円～10万円未満	11 (10.3%)	6 (13.6%)	17 (11.3%)
10万円以上	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
不明	13 (12.1%)	4 (9.1%)	17 (11.3%)
計	107 (100.0%)	44 (100.0%)	151 (100.0%)

表10. 小遣いに対する満足度

満足度	男性	女性	計
充分だと思う	58 (54.2%)	25 (56.8%)	83 (55.0%)
足りないと思う	41 (38.3%)	15 (34.1%)	56 (37.1%)
不明	8 (7.5%)	4 (9.1%)	12 (7.9%)
計	107 (100.0%)	44 (100.0%)	151 (100.0%)

## 本人調査同居

表2. 同居形態

同居形態	男性		女性		合計	
単身	27	(25.2%)	5	(11.4%)	32	(21.2%)
入院、入所中	3	(2.8%)	2	(4.5%)	5	(3.3%)
配偶者のみ	10	(9.3%)	4	(9.1%)	14	(9.3%)
配偶者+子	2	(1.9%)	2	(4.5%)	4	(2.6%)
配偶者+他	3	(2.8%)	2	(4.5%)	5	(3.3%)
親のみ	42	(39.3%)	19	(43.2%)	61	(40.4%)
親+兄弟・姉妹	10	(9.3%)	6	(13.6%)	16	(10.6%)
親+他	3	(2.8%)	1	(2.3%)	4	(2.6%)
兄弟のみ	1	(0.9%)	2	(4.5%)	3	(2.0%)
その他の構成	6	(5.6%)	1	(2.3%)	7	(4.6%)
計	107	(100.0%)	44	(100.0%)	151	(100.0%)

表3. 同居者

同居人	男性(N=107)		女性(N=44)		計(N=151)	
単身	27	(25.2%)	5	(11.4%)	32	(21.2%)
入院・入所	3	(2.8%)	2	(4.5%)	5	(3.3%)
配偶者	15	(14.0%)	8	(18.2%)	23	(15.2%)
親	55	(51.4%)	29	(65.9%)	84	(55.6%)
子供	4	(3.7%)	3	(6.8%)	7	(4.6%)
祖父母	7	(6.5%)	0	(0.0%)	7	(4.6%)
孫	1	(0.9%)	0	(0.0%)	1	(0.7%)
兄弟・姉妹	14	(13.1%)	9	(20.5%)	23	(15.2%)
他親族	2	(1.9%)	0	(0.0%)	2	(1.3%)
その他	7	(6.5%)	2	(4.5%)	9	(6.0%)

表4. 同居者以外の信頼する人

信頼する人	男性 (N=107)		女性 (N=44)		計 (N=151)	
なし	15	(14.0%)	6	(13.6%)	21	(13.9%)
配偶者	3	(2.8%)	2	(4.5%)	5	(3.3%)
親	17	(15.9%)	12	(27.3%)	29	(19.2%)
子	3	(2.8%)	1	(2.3%)	4	(2.6%)
祖父母	1	(0.9%)	3	(6.8%)	4	(2.6%)
孫	0	(0.0%)	1	(2.3%)	1	(0.7%)
兄弟・姉妹	41	(38.3%)	16	(36.4%)	57	(37.7%)
他親族	15	(14.0%)	5	(11.4%)	20	(13.2%)
病院・施設職員	39	(36.4%)	21	(47.7%)	60	(39.7%)
保健所・福祉	29	(27.1%)	16	(36.4%)	45	(29.8%)
その他	24	(22.4%)	9	(20.5%)	33	(21.9%)

表5. 主な収入

主な収入	男性		女性		計
	人数	割合	人数	割合	
給与	7	(6.5%)	2	(4.5%)	9
給与, 障害年金	18	(16.8%)	9	(20.5%)	27
給与, 障害年金, 生活保護	0	(0.0%)	1	(2.3%)	1
給与, 障害年金, 家族援助	4	(3.7%)	3	(6.8%)	7
給与, 障害年金, その他	1	(0.9%)	0	(0.0%)	1
給与, 生活保護	2	(1.9%)	0	(0.0%)	2
給与, 家族援助	9	(8.4%)	4	(9.1%)	13
給与, その他	1	(0.9%)	0	(0.0%)	1
障害年金	20	(18.7%)	7	(15.9%)	27
障害年金, 生活保護	8	(7.5%)	1	(2.3%)	9
障害年金, 家族援助	10	(9.3%)	7	(15.9%)	17
障害年金, 家族援助, その他	0	(0.0%)	2	(4.5%)	2
障害年金, その他	6	(5.6%)	0	(0.0%)	6
生活保護	7	(6.5%)	1	(2.3%)	8
生活保護, その他	3	(2.8%)	0	(0.0%)	3
家族援助	8	(7.5%)	4	(9.1%)	12
その他	2	(1.9%)	1	(2.3%)	3
未記入	1	(0.9%)	2	(4.5%)	3
計	107	(100.0%)	44	(100.0%)	151

表6. 主な収入集計

項目	男性 (N=107)	女性 (N=44)	計 (N=151)
給料	42 (39.3%)	19 (43.2%)	61 (40.4%)
障害年金	67 (62.6%)	30 (68.2%)	97 (64.2%)
生活保護	20 (18.7%)	3 (6.8%)	23 (15.2%)
家族援助	32 (29.9%)	20 (45.5%)	52 (34.4%)
その他	13 (12.1%)	3 (6.8%)	16 (10.6%)

表7. 障害の程度

障害等級	男性		女性		計
	人数	割合	人数	割合	
1級相当	10	(9.3%)	4	(9.1%)	14
2級相当	53	(49.5%)	27	(61.4%)	80
3級相当	13	(12.1%)	3	(6.8%)	16
不明	31	(29.0%)	10	(22.7%)	41
計	107	(100.0%)	44	(100.0%)	151

※障害者手帳の等級を優先して集計。手帳を所持していない場合は障害年金の等級を元にした。

表8. 収入・財産に対する認知

認知の度合い	男性		女性		計
	人数	割合	人数	割合	
すべて知っている	53	(49.5%)	16	(36.4%)	69
小さい程度知っている	33	(30.8%)	18	(40.9%)	51
知らない	17	(15.9%)	5	(11.4%)	22
未記入	4	(3.7%)	5	(11.4%)	9
計	107	(100.0%)	44	(100.0%)	151

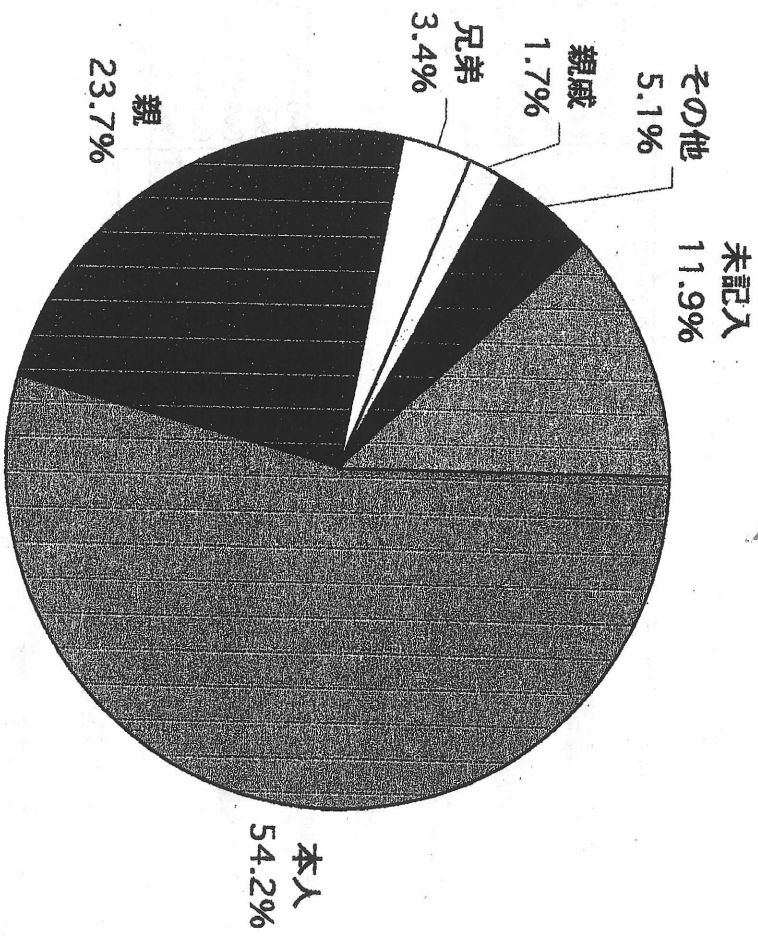


図3. 財産管理者

表11. 年金・通帳の管理

通帳等の管理	性別		計
	男性	女性	
すべて本人管理	64 (59.8%)	24 (54.5%)	88 (58.3%)
日常用の通帳のみ本人	19 (17.8%)	9 (20.5%)	28 (18.5%)
すべて他人管理	19 (17.8%)	6 (13.6%)	25 (16.6%)
未記入	5 (4.7%)	5 (11.4%)	10 (6.6%)
計	107 (100.0%)	44 (100.0%)	151 (100.0%)

表13. 財産の有無

財産の有無	性別		計
	男性	女性	
持っている	41 (38.3%)	18 (40.9%)	59 (39.1%)
持っていない	46 (43.0%)	15 (34.1%)	61 (40.4%)
解らない	16 (15.0%)	6 (13.6%)	22 (14.6%)
未記入	4 (3.7%)	5 (11.4%)	9 (6.0%)
計	107 (100.0%)	44 (100.0%)	151 (100.0%)

表14. 財産管理に関しての不安

不安の有無	性別		計
	男性	女性	
不安なし	47 (43.9%)	15 (34.1%)	62 (41.1%)
今はないが将来的に不安	38 (35.5%)	15 (34.1%)	53 (35.1%)
現在不安を抱えている	11 (10.3%)	6 (13.6%)	17 (11.3%)
未記入	11 (10.3%)	8 (18.2%)	19 (12.6%)
計	107 (100.0%)	44 (100.0%)	151 (100.0%)

表15. 過去にお金の使い方で困ったこと

過去に困ったこと	性別 (N=107)		計 (N=151)
	男性	女性	
高額の商品を売りつけられた	10 (9.3%)	10 (22.7%)	20 (13.2%)
計画通りに使えなかった	49 (45.8%)	9 (20.5%)	58 (38.4%)
お金をだまし取られた	7 (6.5%)	7 (15.9%)	14 (9.3%)
後先を考ない買物で後悔した	32 (29.9%)	18 (40.9%)	50 (33.1%)
その他	9 (8.4%)	5 (11.4%)	14 (9.3%)

表12. 本人以外の通帳管理者

管理者	性別		計
	男性	女性	
親	27 (71.1%)	8 (53.3%)	35 (66.0%)
兄弟・姉妹	2 (5.3%)	2 (13.3%)	4 (7.5%)
親戚	0 (0.0%)	1 (6.7%)	1 (1.9%)
その他	4 (10.5%)	0 (0.0%)	4 (7.5%)
不明	5 (13.2%)	4 (26.7%)	9 (17.0%)
計	38 (100.0%)	15 (100.0%)	53 (100.0%)

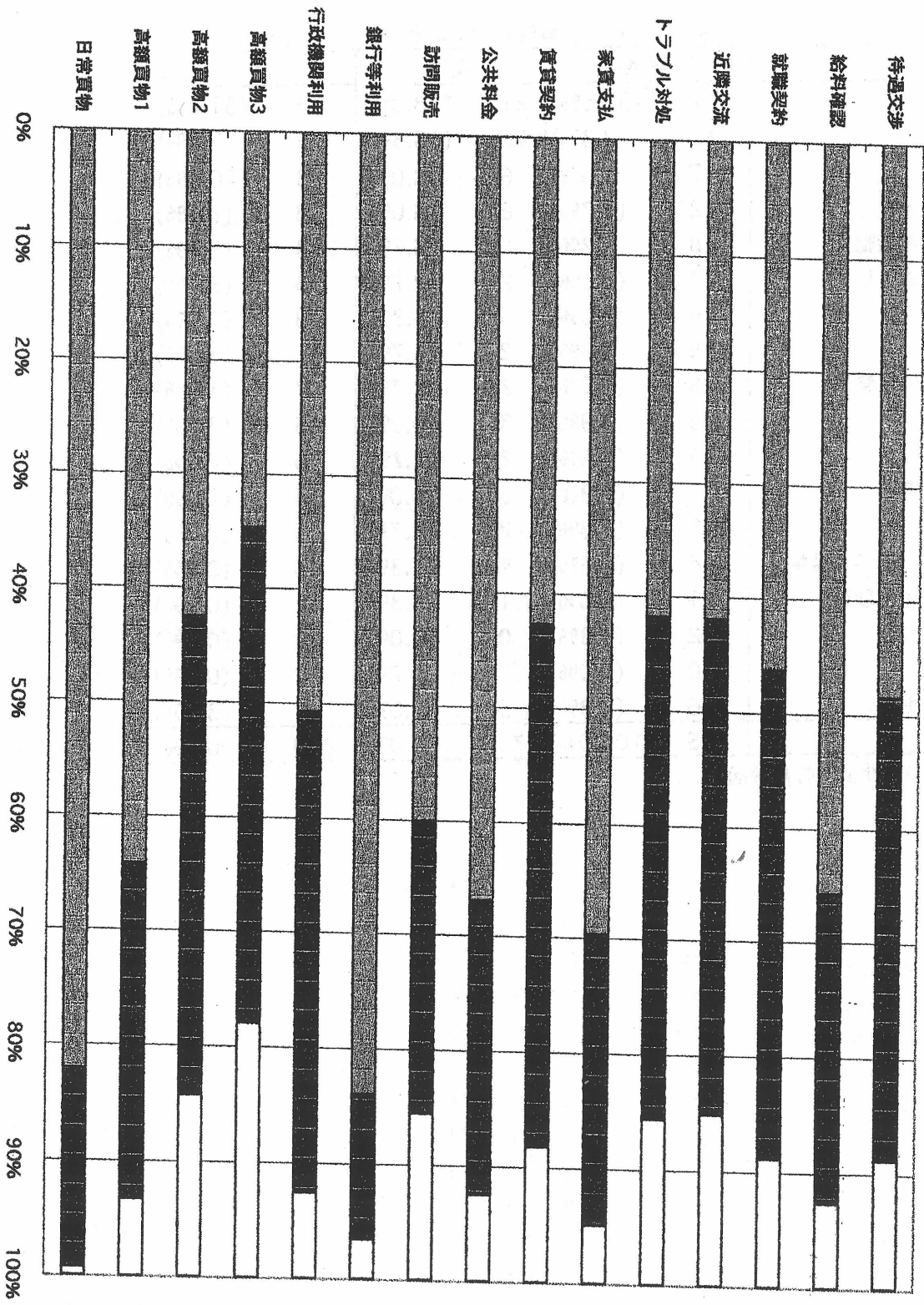


図4. 生活行動に対する認識

■ 一人ですでできる  
 ■ 手伝って欲しい/少し不安  
 □ 他に人に頼みたい/とても不安

## 生活体験

表15. これから体験したいこと

分類	男性		女性		計	
旅行	52	(33.5%)	21	(28.0%)	73	(31.7%)
結婚	19	(12.3%)	10	(13.3%)	29	(12.6%)
仕事	17	(11.0%)	6	(8.0%)	23	(10.0%)
生活経験	12	(7.7%)	6	(8.0%)	18	(7.8%)
当事者活動	8	(5.2%)	5	(6.7%)	13	(5.7%)
一人暮らし	7	(4.5%)	2	(2.7%)	9	(3.9%)
なし	4	(2.6%)	4	(5.3%)	8	(3.5%)
車	5	(3.2%)	2	(2.7%)	7	(3.0%)
家の環境整備	5	(3.2%)	2	(2.7%)	7	(3.0%)
子供	3	(1.9%)	3	(4.0%)	6	(2.6%)
交際	4	(2.6%)	2	(2.7%)	6	(2.6%)
異性交際	3	(1.9%)	3	(4.0%)	6	(2.6%)
物品	3	(1.9%)	2	(2.7%)	5	(2.2%)
大学 (進学・復学)	4	(2.6%)	1	(1.3%)	5	(2.2%)
車 (免許取得)	1	(0.6%)	1	(1.3%)	2	(0.9%)
資格取得	2	(1.3%)	0	(0.0%)	2	(0.9%)
学習	0	(0.0%)	2	(2.7%)	2	(0.9%)
その他	6	(3.9%)	3	(4.0%)	9	(3.9%)
総計	155	(100.0%)	75	(100.0%)	230	(100.0%)

※一人3件までの複数回答。

## 成年後見制度

表16. 成年後見制度に対する認知

成年後見制度について	男性		女性		計	
内容も知っていた	14	(13.1%)	1	(2.3%)	15	(9.9%)
出来ることは知っていた	30	(28.0%)	3	(6.8%)	33	(21.9%)
知らなかった	61	(57.0%)	35	(79.5%)	96	(63.6%)
未記入	2	(1.9%)	5	(11.4%)	7	(4.6%)
計	107	(100.0%)	44	(100.0%)	151	(100.0%)

表17. 援助者に頼みたいこと

期待する援助	男性 (N=107)		女性 (N=44)		計 (N=151)	
預貯金出し入れ	23	(21.5%)	9	(20.5%)	32	(21.2%)
税金・公共料金支払	23	(21.5%)	17	(38.6%)	40	(26.5%)
日常生活上の買物	19	(17.8%)	5	(11.4%)	24	(15.9%)
家屋賃貸、保険契約、高額買物	46	(43.0%)	25	(56.8%)	71	(47.0%)
不動産、重要動産処分	55	(51.4%)	25	(56.8%)	80	(53.0%)
保健医療福祉サービス利用	54	(50.5%)	26	(59.1%)	80	(53.0%)
その他	8	(7.5%)	2	(4.5%)	10	(6.6%)

表18. 財産・権利擁護を頼みたい人

適当と思われる人	男性 (N=107)		女性 (N=44)		計 (N=151)	
親	44	(41.1%)	24	(54.5%)	68	(45.0%)
兄弟・姉妹	40	(37.4%)	14	(31.8%)	54	(35.8%)
配偶者	10	(9.3%)	9	(20.5%)	19	(12.6%)
子供	5	(4.7%)	2	(4.5%)	7	(4.6%)
親類	6	(5.6%)	0	(0.0%)	6	(4.0%)
弁護士、法律専門家	17	(15.9%)	8	(18.2%)	25	(16.6%)
福祉、保健所公的機関	17	(15.9%)	7	(15.9%)	24	(15.9%)
病院、施設法人	14	(13.1%)	6	(13.6%)	20	(13.2%)
医師、看護医療専門職	7	(6.5%)	6	(13.6%)	13	(8.6%)
社会福祉士、精神保健福祉士福祉専門職	17	(15.9%)	6	(13.6%)	23	(15.2%)
社協等福祉関係団体	9	(8.4%)	1	(2.3%)	10	(6.6%)
その他	2	(1.9%)	3	(6.8%)	5	(3.3%)
解らない	7	(6.5%)	4	(9.1%)	11	(7.3%)



# 家族調査年齢

表19. 本人の年齢

年代	男性		女性		計	
10代	1	(1.2%)	1	(2.4%)	2	(1.6%)
20代	10	(11.6%)	8	(19.5%)	18	(14.2%)
30代	34	(39.5%)	3	(7.3%)	37	(29.1%)
40代	26	(30.2%)	13	(31.7%)	39	(30.7%)
50代	4	(4.7%)	12	(29.3%)	16	(12.6%)
60代	6	(7.0%)	1	(2.4%)	7	(5.5%)
70代	4	(4.7%)	3	(7.3%)	7	(5.5%)
不明	1	(1.2%)	0	(0.0%)	1	(0.8%)
計	86	(100.0%)	41	(100.0%)	127	(100.0%)

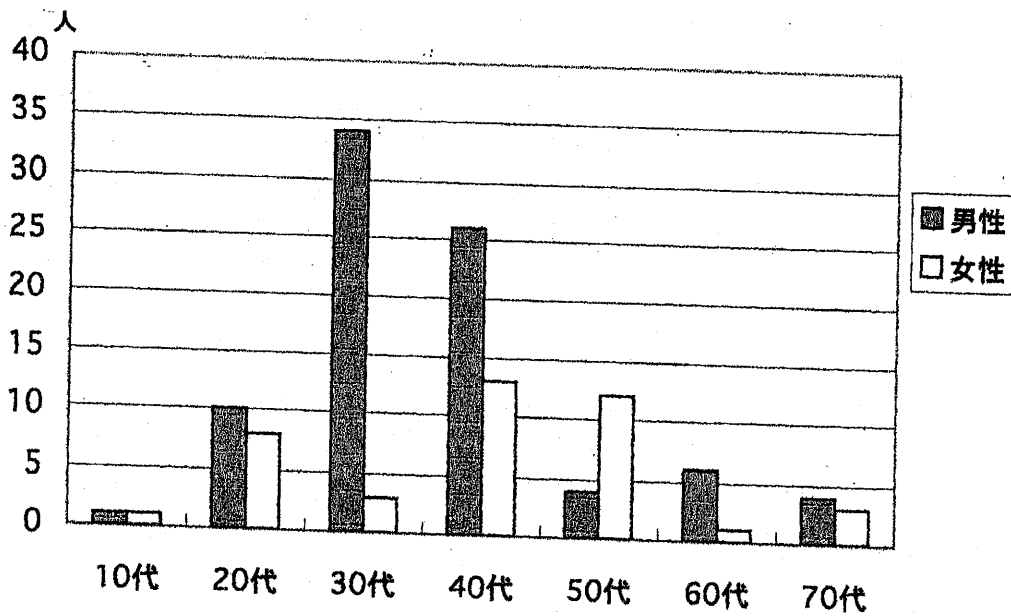


図5. 本人の年齢

家族調査同居

表20. 同居形態

同居形態	男性		女性		合計	
単身	6	(7.0%)	3	(7.3%)	9	(7.1%)
入院、入所中	13	(15.1%)	5	(12.2%)	18	(14.2%)
配偶者のみ	3	(3.5%)	1	(2.4%)	4	(3.1%)
配偶者+子	3	(3.5%)	2	(4.9%)	5	(3.9%)
配偶者+他	0	(0.0%)	2	(4.9%)	2	(1.6%)
親のみ	49	(57.0%)	17	(41.5%)	66	(52.0%)
親+兄弟・姉妹	3	(3.5%)	6	(14.6%)	9	(7.1%)
親+他	3	(3.5%)	1	(2.4%)	4	(3.1%)
兄弟のみ	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
その他の構成	4	(4.7%)	4	(9.8%)	8	(6.3%)
未記入	2	(2.3%)	0	(0.0%)	2	(1.6%)
計	86	(100.0%)	41	(100.0%)	127	(100.0%)

表21. 同居者

同居人	男性(N=86)		女性(N=41)		計(N=127)	
単身	6	(7.0%)	3	(7.3%)	9	(7.1%)
入院・入所	13	(15.1%)	5	(12.2%)	18	(14.2%)
配偶者	6	(7.0%)	5	(12.2%)	11	(8.7%)
親	55	(64.0%)	25	(61.0%)	80	(63.0%)
子供	3	(3.5%)	4	(9.8%)	7	(5.5%)
祖父母	3	(3.5%)	0	(0.0%)	3	(2.4%)
孫	1	(1.2%)	1	(2.4%)	2	(1.6%)
兄弟・姉妹	5	(5.8%)	7	(17.1%)	12	(9.4%)
他親族	1	(1.2%)	1	(2.4%)	2	(1.6%)
その他	2	(2.3%)	2	(4.9%)	4	(3.1%)

表22. 同居者以外の信頼する人

信頼する人	男性 (N=86)		女性 (N=41)		計 (N=127)	
なし	14	(16.3%)	9	(22.0%)	23	(18.1%)
配偶者	2	(2.3%)	1	(2.4%)	3	(2.4%)
親	22	(25.6%)	6	(14.6%)	28	(22.0%)
子	2	(2.3%)	6	(14.6%)	8	(6.3%)
祖父母	3	(3.5%)	3	(7.3%)	6	(4.7%)
孫	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
兄弟・姉妹	38	(44.2%)	10	(24.4%)	48	(37.8%)
他親族	13	(15.1%)	5	(12.2%)	18	(14.2%)
病院・施設職員	26	(30.2%)	8	(19.5%)	34	(26.8%)
保健所・福祉	14	(16.3%)	5	(12.2%)	19	(15.0%)
その他	8	(9.3%)	5	(12.2%)	13	(10.2%)

表23. 主な収入

主な収入	男性		女性		計
	人数	割合	人数	割合	
給与	2	(2.3%)	2	(4.9%)	4
給与、障害年金	5	(5.8%)	0	(0.0%)	5
給与、障害年金、家族援助	6	(7.0%)	1	(2.4%)	7
給与、障害年金、その他	1	(1.2%)	0	(0.0%)	1
給与、家族援助	1	(1.2%)	0	(0.0%)	1
障害年金	26	(30.2%)	16	(39.0%)	42
障害年金、生活保護	2	(2.3%)	0	(0.0%)	2
障害年金、生活保護、家族援助	1	(1.2%)	0	(0.0%)	1
障害年金、家族援助	22	(25.6%)	10	(24.4%)	32
障害年金、その他	3	(3.5%)	0	(0.0%)	3
障害年金、その他	5	(5.8%)	0	(0.0%)	5
生活保護	0	(0.0%)	1	(2.4%)	1
家族援助	7	(8.1%)	8	(19.5%)	15
その他	2	(2.3%)	1	(2.4%)	3
(空白)	3	(3.5%)	2	(4.9%)	5
計	86	(100.0%)	41	(100.0%)	127

表24. 主な収入集計

項目	男性 (N=86)	女性 (N=41)	計 (N=127)
給与	15	3	18
障害年金	71	27	98
生活保護	3	1	4
家族援助	39	19	58
その他	11	1	12

表25. 障害の程度

障害等級	男性		女性		計
	人数	割合	人数	割合	
1級相当	20	(23.3%)	10	(24.4%)	30
2級相当	41	(47.7%)	21	(51.2%)	62
3級相当	11	(12.8%)	3	(7.3%)	14
不明	14	(16.3%)	7	(17.1%)	21
計	86	(100.0%)	41	(100.0%)	127

※障害者手帳の等級を優先して集計。手帳を所持していない場合は障害年金の等級を元にした。

表26. 収入・財産に対する認知

認知の度合い	男性		女性		計
	人数	割合	人数	割合	
すべて知っている	30	(34.9%)	16	(39.0%)	46
小遣い程度知っている	38	(44.2%)	16	(39.0%)	54
知らない	12	(14.0%)	8	(19.5%)	20
未記入	6	(7.0%)	1	(2.4%)	7
計	86	(100.0%)	41	(100.0%)	127

表29. 年金・通帳の管理

通帳等の管理	男性		女性		計
	人数	割合	人数	割合	
すべて本人管理	15	(17.4%)	13	(31.7%)	28
日常用の通帳のみ本人	19	(22.1%)	7	(17.1%)	26
すべて他人管理	33	(38.4%)	13	(31.7%)	46
未記入	19	(22.1%)	8	(19.5%)	27
計	86	(100.0%)	41	(100.0%)	127

収入・財産

表31. 財産の有無

財産の有無	財産の有無		計
	男性	女性	
持っている	32 (37.2%)	12 (29.3%)	44 (34.6%)
持っていない	47 (54.7%)	26 (63.4%)	73 (57.5%)
解らない	0 (0.0%)	1 (2.4%)	1 (0.8%)
未記入	7 (8.1%)	2 (4.9%)	9 (7.1%)
計	86 (100.0%)	41 (100.0%)	127 (100.0%)

表32. 財産管理に關しての不安

不安の有無	不安の有無		計
	男性	女性	
不安なし	13 (15.1%)	8 (19.5%)	21 (16.5%)
今はないが将来的に不安	44 (51.2%)	20 (48.8%)	64 (50.4%)
現在不安を抱えている	14 (16.3%)	4 (9.8%)	18 (14.2%)
未記入	15 (17.4%)	9 (22.0%)	24 (18.9%)
計	86 (100.0%)	41 (100.0%)	127 (100.0%)

表33. 過去にお金の使い方であつたこと

過去に困つたこと	過去に困つたこと		計 (N=127)
	男性 (N=86)	女性 (N=41)	
高額の品物を売りつけられた	9 (10.5%)	3 (7.3%)	12 (9.4%)
計画通りに使えなかつた	29 (33.7%)	14 (34.1%)	43 (33.9%)
お金をだまし取られた	5 (5.8%)	0 (0.0%)	5 (3.9%)
後先を考ない買物で後悔した	28 (32.6%)	14 (34.1%)	42 (33.1%)
その他	21 (24.4%)	9 (22.0%)	30 (23.6%)

表30. 本人以外の通帳管理者

管理者	本人以外の通帳管理者		計
	男性	女性	
親	37 (71.2%)	15 (75.0%)	52 (72.2%)
兄弟・姉妹	6 (11.5%)	2 (10.0%)	8 (11.1%)
親戚	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	1 (1.9%)	2 (10.0%)	3 (4.2%)
不明	8 (15.4%)	1 (5.0%)	9 (12.5%)
計	52 (100.0%)	20 (100.0%)	72 (100.0%)